

日米合同教会月報72巻2011年7-8月号



『教会はキリストの体、一人一人はその部分』

コリントの信徒への第一の手紙12章27節

日米合同教会は、特にニューヨーク市近郊に住む日本人並びに日本に関心を寄せる人々に、礼拝、交わり、学び、伝道・宣教の業を通してキリストの福音をのべ伝え、キリスト者として共に信仰を深めていくことを目的とする信仰共同体です。

◇牧師からのメッセージ

教会が私の牧師メッセージはこれが最後になりますので、思いつくままに過ぎる5年間の思い出の幾つかをたぐってみたいと思います。◆赴任した最初の週の月曜日、私は教会の頑丈な扉の前で立ち往生していました。何としても開かないのです。後で教会秘書の吉田さんが教えてくれました。「キーを挿入したら、そおーっと、ほんの少し手前に引いてから、左にゆっくりとひねってください。そうすると開くかもしれません。」それから私は教会の前に立つたびに「そおーっと手前に、そおーっと手前に」が口癖になりました。◆赴任してすぐ、JAUCのメンバーのほとんどが、アメリカでキリストの福音と出会った方々であることに気づきました。アメリカに移り住んで何十年も経つ方、中堅社員として働いている方、留学や研究にニューヨークを訪れ、住みついた方、アメリカ人や日本人以外の移民と結婚した方、ニューヨークに生まれ、育った日系の若者等との出会いがそれぞれ目に浮かびます。JAUCがなかったら、彼らはクリスチャンにならなかったかもしれないのです。そのことを思うと日米合同教会の存在の重さにあらためて目が開かれる思いでした。◆若者、そして中年やお年を召した方々に洗礼を授けることができました。繰り返しになりますが、この教会がなかったら、その方々は洗礼を受けるチャンスを逸したかもしれないのです。JAUCは、これからますますニューヨークの地に深く根を張り、その存在を外に向かって知らしめる責任が与えられているのです。◆JAUCに赴任して初めて体験したことと言えば、毎週説教の原稿を日英両語で書くことでした。かつてシアトルの日本人教会で牧会した時は、英語部を担任していたので説教は英語だけでよかったです。青山学院のチャペルでの説教や日本の教会での説教は当然日本語で行いました。しかしJAUCでは日本語の人も、英語だけの人も、両方できる人も一緒になって礼拝します。当然説教は日英両語ということになります。言語の異なる人々が一緒に礼拝を守る。これは素晴らしいことだと思います。その大切さを肝に銘じていたので、毎週二つの説教原稿を書くのは確かに大変でしたが、それを重荷に感じたことは一度もありません。◆私が赴任してから、赤ちゃんが4人産まれました。そして少しずつですが日曜学校に出席する子供達の数が増えています。日曜学校の先生達も頑張っ

ています。20年後に日米合同教会を背負って立つ若者に育つように期待しましょう。◆このような楽しくも、充実した5年間を過ごさせて頂きましたが、注文もあります。JAUCが一番注意しなければならないのは、井の中の蛙になりやすいことです。他のUMC（合同メソジスト教会）やRCA（改革派教会）の教会では絶対通用しないことが、この教会では当たり前のこととして行われていることです。◆二つの例を挙げます。委員会に出席を認めら陪席者は、発言することはできません。陪席者が発言するのは委員会から特定の質問を受けた時に限ります。ましてや陪席者が自分の意見を委員会で声高に主張するのはもってのほかです。また委員会のメンバーは、議論の内容を委員会外の人に口外することは固く禁じられています。それは秘密主義ではなく、特定の意見を外に向かって流すことによって、様々な誤解や猜疑を生む可能性があるからです。私の知る限り、このようなことが当たり前のこととして行われている教会は、JAUCだけです。◆私が去るのを契機に、この二つの、JAUCだけに通用する習慣は是非改めるべきだと思います。そして、新しい牧師のリーダーシップの下で力を合わせて軟着陸状態から空に向かってたくましく飛翔する教会へと羽ばたかれるようにお祈りいたします。◆最後に、皆様が私と妻エリザベスに示してくださった信仰者同士の暖かい友情に心から感謝申し上げます。

◇日曜礼拝説教より◇

■「教会の基盤」コリント人への第2の手紙13章5節—13節 主イエスのメッセージは世界を変え、歴史を変えました。しかしその伝道の領域は、ガリラヤ地方とエルサレムに限られていました。キリストの福音を小アジア、ギリシャ、そしてローマにまで伝えたのはパウロです。パウロが立ち上げた教会の一つがコリントの教会です。彼の指導の下、初期のコリント教会はメンバーも多く、最も成功した教会として知られたようです。しかし、その教会が分裂の危機に見舞われることとなります。世俗化したクリスチャンとパウロが呼ぶ人達を巡って教会員の間に仲違いや確執が起きたのです。◆前者は長老や執事を選ぶ尺度を、見た目の良さ、通りの良い声、社会的地位、雄弁に求め、福音の深い理解や、祈りに基礎づけられた生活等は二の次だと主張したのです。

その上、自分はキリストによって救われているのだから、礼拝や祈りは必要なしと考える者もあり、礼拝を大切にしなかったことでした。パウロの悲しみや怒りの程はコリント人の手紙に明らかです。「私はあなたの方のことを聞いてどうしてよいか分からない。私の心は乱れ、私の目は涙が尽きない」。◆ここから私たちが学べることは、「礼拝なくして信仰なし」、これです。礼拝なくして信仰は死んでしまいます。彼の手紙にはもう一つの重要なメッセージとして、神は差別をなさらず、世俗化したクリスチャンをも同様に

日米合同教会月報72巻2011年7-8月号

愛しており、「神はこの世をご自分と和解させられた。神は和解のメッセージをあなたがたに託された。あなたがたは、キリストの使者となるように召し出されている。」とパウロは主張するのです。◆以上のことから、教会とは一つに礼拝する者達の信仰共同体であり、また葛藤や確執を乗り越えて和解しあう、赦された罪人の信仰共同体ということが学べます。神は私たち一人一人を土の器として、摂理の道具として、キリストの使者として用いられるのです。私たちの中で無視されている者は一人もいないのです。■「ペンテコステは教会の始まり」使徒行伝2章1節-13節 イエスに従う者たちがエルサレムで伝道を始めた時、彼らの言語はアラム語とたどたどしいギリシャ語でした。ですから、外国生まれのユダヤ人達が、イエスの福音の内容を理解することはできませんでした。しかし今日の聖書のテキストによると、イエス復活後の最初のペンテコステの日に、この問題は不思議な形で解決されたのです。◆ペンテコステは、ユダヤ民族にとって最も大切な祝日の一つです。ですから、それを祝うユダヤ人は、ユダヤの地からだけでなく、トルコやシリア、リビア、それに遠くはエジプトからも大勢やってきていて、エルサレムの町は、いわゆるビジターで一杯でした。伝道には絶好のチャンスでした。不思議なことが起こります。アラム語しか話せない筈のイエスの弟子達は、各国の言葉を駆使して、イエスの福音を語り始めたのです。そして外国育ちのユダヤ人は自分たちの母国語でそれを理解することができたというのです。◆イエスの福音は言語や国籍を超えたユニバーサルなものなのです。外国生まれのユダヤ人たちが母国語で理解した時、イエスのメッセージは彼らの魂を揺り動かし、彼らの人間性を変革したと言い換えることもできるでしょう。イエスの福音は全人類に開かれているのです。だからこそ、日米合同教会にも福音は新たにもたらされる筈です。私たちはそのために一生懸命に祈るでしょうか。それとも無関心を装うでしょうか。前者を選べば、後者は捨てなくてはなりません。後者を選べば、前者は捨てなくてはなりません。両方を選ぶという虫のいい話は責任放棄です。日米合同教会の現在と未来は、私たち一人一人の選択にかかっているのです。

◇教会活動スケジュール・報告◇

■**鈴木先生ご夫妻の送別会** ご存知の通り、鈴木有郷先生が7月末で当教会の牧師職を引退されます。鈴木先生並びに奥様のエリザベス姉の5年間にわたるご奉仕に感謝する特別プログラムが、7月24日(日)に教会で行なわれます。プログラムは通常の日曜礼拝から始まり、午後には教会員によるスピーチ、音楽の演奏、ギフト贈呈などが予定されています。当日の昼食には仕出し弁当を注文します。弁当の個数を確認しなければなりませんので、ご希望の方は19日までに教会事務所までご連絡下さい(弁当代として、子供5ドル、大人8ドルをお願いしております)。

す)。また、先生にお贈りする写真・メッセージを集めたスクラップブックを作成しておりますので、シートをコーディネーター役の吉田ジェリ姉からお受け取り下さい。◆なお、鈴木先生のJAUC牧師としての職務は7月で終了しますが、8月の第1・第2日曜日は先生にゲストスピーカーとして礼拝でお話して頂きます。

■**新牧師招聘に向けて** 理事会の牧師招聘チームは、新牧師招聘に向けて教団の代表と連絡を取り合っています。

■**子供夏期キャンプ** SMJ (Special Ministry to the Japanese) 主催の「小中学生ディスカバリーキャンプ」が7月10日から22日までシェルター島で行われております。今年は22名の子供たち、7名の大人が参加しています。JAUCからは相田もえちゃん、石神慎也君の2人がキャンパーとして、また相田尚子姉、佐藤美由紀姉がカウンセラーとして参加されています。ディレクターは吉松純先生。伊与田昭夫先生もスタッフとして行かれています。

■**春のアルファコース** 「キリスト教は初めて」という方のための入門コース「アルファ」が6月1日から始まっております。毎週水曜日の午後7時から、合計13セッションが予定されています。今後のトピックは「神のいやしとは？」(7月20日)、「イエスを伝えるとは？」(27日)、「教会とは？」(8月3日)です。どのセッションからでも参加出来ます。詳細は丸橋ダウズ理加姉まで。

■**バザー** 婦人会は6月19日・26日午後教会でバザーを開催し、1526ドル76セントの売り上げを得ました。収益の半分(763ドル38セント)は東日本大震災被災者への支援、半分は教会の建物修理のために用いられます。献品して下さいました方、またお手伝いをして下さった方々に心から感謝いたします。

■**日曜学校** 教会の日曜学校は9月始めまでお休みです。

■**建物修理に関する会衆集会** 教会の修理に関する2回目の会衆集会が6月12日(日)午後教会で持たれました。集会では、これまでになされた工事箇所に関する説明の後、今後教会正面のタイル修理並びに消防法・建築法違反の是正のための工事が必要であると報告されました。質疑応答の後、会衆は最大7万5千ドルまでの追加支出を投票により承認しました。

■**ジャスティン春山奨学金** 2011/2012年度のジャスティン春山スカラシップ受給生を選ぶ選考委員会の会合が6月16日に持たれました。出席した選考員はジョン・ヒムストラ牧師、鈴木有郷牧師、吉松純牧師、上原えみ姉、吉田小夜子姉、栗原健兄です(春山サラ夫人と安藤進牧師は都合により欠席)。今年は下記の10名の神学生に計7千ドルの奨学金を授与することが決定されました。Kristin Tomiye-Asami Ou(フラワースクール、CA)、Mitsunari Nakashima(同)、Jennifer Ikoma Motzko(ムコルミック神学校、IL)、Ken Hiramatsu(アズベリー神学校、KY)、Yukari Hata(ゴードン・コンウェル神学校、MA)、Seiichi Yaginuma(トリニティ福音神学校、IL)、Kyoko Murata(アズベリー神学校)、Yumi Shoji(ゴードン・コンウェル神学校)、Arthur Wolf Rouzr(フラワースクール)、Yuko Unehara(ドルー神学校、NJ)

日米合同教会月報72巻2011年7-8月号



◇東日本大震災関連のニュース◇

■**震災被災者のための献金継続中** JAUCでは3月20日以来、震災被災者のための献金を募っています。4月30日までに集まった献金は、すでに合同メソジスト教会並びに米国改革派教会の救済局に送りました。引き続き寄付を呼びかけております。

■**錦織範子姉による被災地の話** 7月11日にJAUCで持たれたVIP集会には、震災後看護師として塩釜・石巻・山元町など被災地の避難所で働かれた錦織範子姉(ニュージャージー日本語教会牧師の錦織学先生の奥様)がスピーカーとして来られ、津波を生き延びた人々が抱えているトラウマ、その中であって見出せた希望について詳しく語って下さいました。とりわけ、目の前を津波に流されて行く家族や近所の人々を助けることが出来なかった痛みは多くの人々の心に深く残っており、半数以上の児童を津波で失った大川小学校では、子供たちですら生き延びたことに後ろめたさを感じて苦しんでいるとの話には、出席者一同言葉を失いました。しかし、家も家族を失った男性に、「助かった時は『何で俺だけ助かったんだ、これからどうやって生きて行けばいいんだ』との思いで一杯で、助かってもらいたいななんて思わなかったが、ボランティアの人が懸命に働いて下さってるのを見て、今だったら心からありがたうと言える。それに、苦しめるのは自分だけじゃないと分かって目が開かれた」と言われ、感謝して共に祈ることが出来たとのこと。「被災地での体験により、自分は生かされているんだ、生きているのは偶然ではなくて、神様によって生かされ、ここに置かれているのも自分にしか出来ないことがあるからだと改めて感じました。」(錦織姉)。

◇メンバー関連◇

■**婚約！結婚式！！** 福永拓実兄と三上直美姉が婚約され、8月27日(土)に結婚式がJAUCで行われることになりました。おめでとうございます。新居はロングアイランドシティとのこと。当日は鈴木有郷先生が教会に来て下さり、司式して下さいます。

◆鈴木有郷先生ご夫妻のご長男ジョナサン兄が8月26日、婚約者のカズコ・リンダ・サカモト姉と結婚されます。式はご家族のみ参加のものとなります。

■**橋本まな姉の受洗** 橋本まな姉とお嬢さんのゆうーロイちゃんが6月12日の日曜礼拝で洗礼を受けられました。おめでとうございます。橋本姉は舞踊家として活躍されており、震災被災者のための支援イベントなどにも出演されております。

■**藤井達雄兄の帰天** JAUCの長年のメンバーであった藤井達雄兄が6月22日に天に召され、6月25日にニュージャージーの

ラザーフォードでメモリアル・サービスが行われました。成田義男兄、大沼孝子姉と大沼家のご家族、栗原紀子姉らが出席され、教会並びにMen's & Women's Fellowship合同で花輪をお届けしました。奥様のさだ姉、ご家族の皆様の上に神様の慰めがありますように。藤井兄の教会員としての誠実な生涯に感謝します。

■**石神姉ご一家、ブルガリアへ** ニューヨーク日本領事館にお勤めの石神瑠美子姉が、このほどブルガリアの首都ソフィアの日本大使館へ転任されることになり、8月中旬にNYを出発されます。ご長男の慎也君はいつも元気一杯で好奇心旺盛、日曜学校を明るくしてくれました。ご主人様も感謝祭の折などに料理を手伝って下さり、感謝です。

◆**パーク氏、韓国へ** この1年半ほどJAUCに集われ、日曜学校を熱心に手伝って下さったティディ・パーク氏が留学を終えられ、6月上旬に韓国へ帰国されました。

◇地域教会ネットワーク◇

■**鈴木譲先生シアトルへ** ニューヨーク日本語教会(在タカホ一)の牧師鈴木譲先生がシアトル郊外にある栄光キリスト教会の牧師として赴任されることになり、6月29日にNYを出発されました。

■**SMJ新コーディネーター** 相良昌彦先生の後任として、長老派教会のテリノ尊子先生がSMJ (Special Ministry to the Japanese)の新コーディネーターに赴任されることとなりました。8月1日から3年間の任期が始まります。テリノ先生は今春、JAUCでも一度説教されたことがあります。

■**吉松先生、博士号取得** 吉松純先生が5月、コロンビア大学から教育学の博士号を授与されました。おめでとうございます。

■**VIP集会** NY・NJ地区の日本人信徒が集まって学びや証しの時を持つこの会は、毎月第2月曜午後7時15分からJAUCで開かれております。ただし8月は日程変更の可能性がありますので、ご確認下さい。

◇祈りのリクエスト◇

東日本大震災の被災者の方々、並びに次の方々を祈りに覚えて下さい。ロベルト・アセバード(アセバード兄のお父様)、バーバラ・アレキサンダー師、浅井ひさよ、伊藤ゆう子、岩佐敏夫、奥田久子、小口愛(アトランタ・ウェストミンスター教会)、神塚アーサー師・リリー、神崎ヨネ、桑田ハリ、ゴーマン美智子、野間美奈子、松本二三子、向井ジョージ(ベイサイド在住)、向井ジョージ(オネオンタ)、山崎あきら(堀内姉のお兄様)、湯沢キミ諸兄姉

スモール・グループ

スモールグループは教会員の霊的成長のための教会プログラムです(自由参加)。少人数での交わり(フェロシップ)を通して、クリスチャンとして実生活でどう生きるかなどを考え、互いに支えあい高めあうことを目的とします。時刻は変更されることがありますので、各グループの担当者または月報を確認下さい。

SG 1. 女性信徒の学び会(バイリンガル) 第2、4土1時	園田姉宅
SG 2. 日本人女性の会 第2火11時	日下部姉宅
SG 3. 男性信徒の学び会(バイリンガル) 第2、4日9時半	教会(日下部兄)

日米合同教会月報72巻2011年7-8月号

SG 4. 日本語での学び会
SG 5. 日本語「葡萄の木」の会
SG 6. 日本語「証しと祈りの会」
SG 7. 英語での学びの会

第2日2時 教会(春日姉)
第4日2時 教会(小林姉)
毎月最終金夜7時 寒河江兄宅
毎月第3日曜 教会(吉田夫妻)